

令和2年度 連携研究スキームによる研究（委託研究課題）
研究成果等概要報告書

	課題番号	20351635
研究テーマ名	ポスト新型コロナウイルス時代における食料安全保障のあり方に関する研究のうち「食料の安定的な供給体制の構築に関する研究」	
委託研究課題名	新型コロナウイルス流行による消費者心理・行動様式の長期的変容がもたらす新たな食料供給・消費問題の検証	
研究実施期間（西暦）	2020年度～2022年度（3年間）	
中核機関・研究総括者	早稲田大学 下川 哲	

1 研究の進捗状況等

本年度は、次年度以降の研究推進のためのデータ収集、環境整備、および予備調査をおこなった。具体的には、関連する先行研究の整理、新型コロナ感染状況および報道に関するデータの収集、行動様式データベースの構築、経済実験のデザインおよび必要な機材の整備、孤食に関する学生アンケート調査を実施した。

① 新型コロナウイルス流行が食に関する行動様式に与える影響の分析

ウェブ閲覧、検索エンジンでの検索ワードや食意識・消費行動を記録したシングルソースパネルデータを整備した。また、外食頻度などの食行動や食意識データを結合した各種食品のスキナーパネルデータを整備した。これらのデータに県別新規陽性者数の日別データを接続し、行動様式解析のためのデータベースを構築した。

② 新型コロナウイルス流行のマインドセットへの影響の分析

経済実験における視線解析・表情解析に必要な機材とソフトウェアを整備した。また、新型コロナ感染拡大に関する情報が、外食リスクの認知に与える影響を計測するための経済実験をデザインした。加えて、そのような心理への影響が、実際の外出行動とどのように相関しているかを検証するためのデータベースを構築した。さらに、大学生を対象に、孤食の現状と心理状態に関するオンライン調査を実施した。調査において、1日の全ての食事を1人で食べる頻度は、20%以上の学生がほぼ毎日、8.5%の学生が週4、5日と回答し、予想よりも多くの学生が孤食の状態にあることが判明した。一方で、孤食状態の学生のうち、「本当は1人で食べたくない」と感じているのは約48%に留まり、約半分の学生は孤食をあまり気にしていないこともわかった。つまり、孤食イコール孤立ではなく、マインドセットへの影響を分析するには、SNSや相談相手の有無なども考慮に入れる必要性が示唆された。